

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

		自己評価 実践状況	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>1.理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて運営理念を唱和し、理念の定着を図っている。また、ユニット会議の最初に、運営理念に沿ったケアが実践できているかを毎回確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流委員会を立ち上げ、地域との交流に努めている。また、納涼祭等の行事では、地域住民の参加を呼び掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回、ホーム内での入居者様の様子、勉強会などの取り組みの様子を記した新聞を作成し、市役所に配布している。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね二ヶ月に1回開催している。ご家族・民生委員・市役所担当者・地域包括・自治会等、ホームの運営に関して様々な意見を頂きサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢介護課の担当者や地域包括支援センターの担当者の方とは、運営推進会議や、市の連絡会議等を通じてホーム運営上の意見を頂いている。疑問、質問は率先して相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行われていない。玄関はご家族様や近隣の方々の不安があり施錠しているが、職員と一緒にいつでも外へ出られる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で学ぶ機会を設けている。そのような行為が生じないように管理者・リーダーはスタッフを指導し意識を高めている。	

		自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		と活用 支援事業や成年 ち、個々の必要 を個別者と話し合 活用できるよう支 援している	全スタッフが理解、活用できるように、ホーム内の研修を行い、又、外部研修への参加も促している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては個室にて対応している。契約書・重要事項説明書の読み合わせをし、ご家族様のご理解・ご納得頂けるまで詳しく説明を行っている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時には「何か気になることはありますか？」と声を掛けるようにしている。ご家族の意見は、その都度スタッフに周知し、ユニット会議等で改善策を話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム責任者との面談、会議、カンファレンス等でスタッフの意見・提案を聞く機会を設け更にそれについて話し合い反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入職前経験年数・勤続年数・資格手当・コンピテンシー評価等、個人の努力が反映されるシステムになっている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については情報をアナウンスし、参加は個々に任せている。本部研修、又はホーム内の勉強会等で学ぶ機会を設けスタッフのスキルアップに取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームとの合同イベントや地域のホームへの相互訪問し行事参加を通じて良い面を取り入れるようにしている。	

		自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		<p>援</p> <p>人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人の話を傾聴しながら、必要な情報を調査票に記入し、事前の状況を各スタッフに周知することで、入居後の安心安全なサービスが行われるよう努めている。</p>	
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の話を傾聴しながら、必要な情報を調査票に記入し、事前の状況を各スタッフに周知することで、入居後の安心安全なサービスが行われるよう努めている。</p>	
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ホームでのサービスに限らず、他医療機関等への連携の支援など、できるだけご家族の心配や不安を解消できるよう努めている</p>	
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者様を人生の大先輩として尊敬し、「できないことを支援させていただく」という気持ちを込めたケアをするよう指導している。</p>	
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>事前に連絡のとりやすい時間を聞いておき、状況に応じて家族の協力をいただいている。</p>	
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居前と同様の頻度での関係継続は難しいのが現状である。人員に余裕がある時は、できるだけご本人の要望にこたえるようにしている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>レクリエーションや日々のお手伝いを通じて、入居者様同士がかかわれるよう支援している。</p>	

		自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		も、これまでの関 りて本人・家族 に努めている	入居者様退去後も、ご家族の相談を受けたり、連絡を取るなどし、よい関係を続けられるように努めている	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の生活歴や普段のケアをもとに、月1回のケアカンファレンスを開催し、その入居者様にあったサービスをユニット内で話し合い実行している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の生活歴や普段のケアをもとに、月1回のケアカンファレンスを開催し、その入居者様にあったサービスをユニット内で話し合い実行している	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様々な記録用紙を用い、入居者様の日々の暮らし、および身体状況の把握に努めている	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会に来られたご家族とも相談し、家族および入居者様のニーズに沿った介護計画を、月1回のカンファレンスにて話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、ケア日報のほかに、各入居者様用の連絡ノートを使用し、スタッフ間で情報の共有を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム内のサービスだけでなく、外部の施設や一般の利用施設などにも足を運び、地域との交流も含め対応できるよう支援している。	

		自己評価 実践状況	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		地域資源を把握しながら安全で豊かな暮らしを支えている	近隣の公園に散歩に行ったり、自治体主催の夏祭りに参加したりしている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様との相談の上、かかりつけ医を決定している。また、月2回の往診があり、必要に応じて医療の相談が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護師が来ている。その都度気になる点は看護師に相談し、必要に応じて看護師から医師に状況を報告している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームにて作成している入居者情報を病院側に提示することで情報提供している。また、ご家族および病院と随時連絡を取りつつ、面会にてご本人様の状況を見ながら、早期退院に努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様の状態を見ながら、できるだけ早い段階で終末期ケアの方針をご家族様と交え相談するようにしている。ホームで出来ること出来ないことを明確にし、ご家族様に伝え方向を決めて頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会等を通じて、応急手当の方法を確認している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、消防署による避難訓練があり、職員・入居者様ともに参加している。	



		自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
日々の支援				
	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	すべての入居者様に同様の言葉づかいをするのではなく、その人の生活歴、人生観、性格等に見合った言葉づかいをしている。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の「～したい」という意思是可能な限り尊重している。自ら訴えのできない方は、選択肢を複数用意し、可能な限り自己決定できるようにしている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、その方の希望をかなえられるように支援している。優先順位を常に考え、臨機応変に対応できるようにしている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	第三者から見て恥ずかしくないよう、状況に応じて随時身だしなみを整えるよう支援している。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳台を取りに行くところから始まり、下膳し片づけるまで、入居者様との協力ができている。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本部の栄養士が献立を立てている。禁食の管理は徹底し、好みも出来るだけ希望に添えるように厨房と相談しながら提供している。水分に関して自発的に水分補給が行えない方は声かけし確保している。又、時間を決めて提供をしている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけを行っているが、その時の気分により適切にできないときがある。その場合には、時間をおいて再度声かけするようにしている。		

		自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		排泄チェック表を用い、一人ひとりの排泄パターンを把握することで、排泄の失敗を減らしている。		
44		便秘が続く場合は、ただちに看護師や医師に相談するとともに、スタッフ間で話し合いながら便秘の改善につとめている		
45	(17)	一人ひとりに声かけし、ご本人の了解のうえで入浴していただいている。また、要望があった場合には、午前午後を問わず、可能な限り入浴していただいている。		
46		その方の身体状況によるが、一人ひとりに声かけをし、昼寝や夜間の臥床介助をしている。		
47		一人ひとりの処方薬がわかるようにファイルに綴じ、いつでも閲覧できるようにしている。特に変更になった時には様子観察強化するように指導している。		
48		その方にあつたレクリエーションや、家事や縫い物、散歩等を提供し、気分転換をしていただいている。		
49	(18)	近隣の公園に散歩に行ったり、スーパーやショッピングセンターへ買い物に出かけている。		

		自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		入居者様の状態により、本人管理の方もいるが、トラブルを避けるため、原則ホームでの管理となっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、必要に応じてスタッフが次ぎ、本人に出ている。手紙は、居室担当が毎月1回ご家族様に状況報告をしている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア全体で、家庭的で落ち着けるような雰囲気作りを心掛けている。季節を感じることのできる貼り絵や、写真、飾り物等作成し、食堂や廊下の壁に貼っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファーや本棚CDラジカセを置き、ゆったりとした時間を過ごすことができるようにしている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染みのものを可能な限り持参してもらい、ご自分の部屋と同様使いやすく配置し、居心地良く使用していただいている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室の場所など、大きな文字や絵を用いてわかりやすいよう工夫している。また、職員同士で声かけをし、フロア内に職員が不在にならぬよう工夫をしている。	